

学びの庭



第7号

知・徳・体の調和のとれた児童の育成を図り、児童一人一人のよさや可能性を伸ばす。

文責 校長 岩下清彦

全国学力・学習状況調査における本校の状況

本年度の「全国学力・学習状況調査」は、4月17日に全国の小学6年生と中学3年生を対象に実施されました。小学校6年生については、毎年実施の国語・算数に、3年ぶりに理科を加えた3教科で行われました。

この調査は、児童の学力や学習状況を把握し、その結果を分析することで、県や学校ごとの課題を明らかにすることにより、今後の指導の充実や授業改善等に役立てることを目的としています。調査内容は、①教科（国語・算数・理科）に関する調査、②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査から構成され、国語・算数は、A：主として「知識」に関する問題と、B：主として「活用」に関する問題に分かれています。

本校では、文部科学省から送付されてきた調査結果をもとに、詳細な分析を進めてきました。その結果がまとまりましたので、保護者の皆様にお知らせいたします。併せて、学校ホームページ及び地域の回覧板でもお知らせする予定です。

なお、調査に参加した6年生の保護者の皆様には、個別懇談の折りに、個人票をもとに具体的にお伝えしていく予定です。

分析結果の概要

1 本校の状況

本校の学力の状況は、国語・算数・理科ともに正答率において県平均と同等か上回っており、全国平均とほぼ同等の状況であり、大きな差異は見られませんでした。

国語A問題では、県及び全国平均の正答率と同等の結果となっていて、概ね基礎基本の定着が図られていると考えられます。また、国語B問題と算数、理科については、県平均を上回り、全国平均とほぼ同等となっており、身に付けた知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力が身に付いていると考えられます。

質問紙調査では、自己肯定感、規範意識の高い児童が多く、やる気をもって学校生活を送っていること、家族や友達との関係が良好な児童が多く、安定した環境で生活を送ることができていると考えられます。地域行事や社会への関心が高いこと、全ての学習に意欲的に取り組んでいること、読書に親しんでいることもうかがえました。しかし一方で、家庭での学習時間やボランティア活動への参加等については、課題が見られました。

平成30年度 全国学力・学習状況調査 教科別平均正答率

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3
山梨県	71	54	62	50	60
玉諸小	○	◎	◎	◎	◎

◎：県の正答率を上回り、全国の正答率と同等 ○：全国、県の正答率と同等

平成29年度から、県及び各学校等の平均正答率は整数値で公表されています。

2 教科別の結果についての考察と今後の取り組み

□ 国語

- 国語Aについては、全国及び県の正答率と同等の結果となっており、概ね習熟が図られていると言えます。領域別では、
 - ・ 「話すこと・聞くこと」で、全国及び県の正答率とほぼ同じ正答率であり、標準的な力が身に付いています。
 - ・ 「書くこと」「読むこと」では、全国及び県の正答率を上回っており、着実に力が定着しています。
 - ・ 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、全国及び県の正答率を下回っており、本校の課題になるところと言えます。
- 国語Bについては、県よりも正答率は高く、全国の正答率とほぼ同じ正答率となっており、標準的な力が身に付いていると言えます。選択式では全国及び県の正答率と同等、記述式では、上回る結果となっています。領域別では、
 - ・ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」で、全国及び県の正答率を上回っています。書く力を活用する力は定着してきています。昨年度と比較して、無解答のままの割合が減少し、粘り強く取り組む様子がうかがえ、分布をみても下位層が少ない状況です。
 - ・ 「読むこと」については、全国及び県の正答率を下回っており、本校の課題になるところと言えます。

今後の取り組み

昨年度と比較すると、漢字の正答率は、全国平均に確実に近づき、一部では上回る場所も出てきています。今後も新出漢字を学習する際に、漢字の意味や同音異義語に注意するようにさせていくことで、さらなる向上を望めると考えます。また、既習の漢字を計画的に復習させる指導においても、機械的に練習をするのではなく、活用の場面を意識させながら、短文作りなどに取り組む必要があります。さらに語彙を増やすためには、中学年のうちから、日常的に国語辞典や漢字辞典を活用する習慣を身に付けさせていくことが大切です。日常的に、学習感想・スピーチメモ・板書のまとめなどのノート指導を中心に、書くことを重視した学習活動を取り入れた授業の工夫が必要になります。

複数の理由を答える問題については、まず、質問されている内容が分かること、そのための根拠を見つけ出して示すことの2つのステップが、児童の中に構築されていないうちは難しいと思われます。積極的に教師が授業の中に話し合う場面を設けることと、考えを進める際の見通しを持たせることを普段から取り入れていくことが必要です。さらにメモをとらせて考えがぶれないようにするなどの工夫、およびそのチェックも効果的です。昨年度と比較して全国との差は小さくなってきているので、今後も中学年のうちから理由を考えさせることを、学級会や朝のスピーチなどで、意図的に取り組むことが重要です。また、自分の考えや目的に合った意見等を、複数の資料を関連付けながら見出す場面を、発達段階に応じて意図的に設けることが必要です。加えて、朝読書の時間を利用した、読書メモなどの活動にも取り組ませていきたいと考えています。

□ 算数

- 算数Aについては、全国及び県の正答率を上回る結果となっており、標準的な力が身に付いていると言えます。領域別では、
 - ・ 「図形」で、全国及び県の正答率を上回り、着実に力が定着しています。
 - ・ 「量と測定」「数量関係」では、全国及び県の正答率とほぼ同じ正答率であり、標準的な力が身に付いています。
 - ・ 「数と計算」については、全国及び県の正答率を下回っており、本校の課題になるところと言えます。
- 算数Bについては、県よりも高く、全国の正答率とほぼ同じ正答率となっており、標準的な力が身に付いていると言えます。選択式・記述式とも、全国及び県の正答率を上回る結果となっています。領域別では、
 - ・ 「数と計算」「図形」で、全国及び県の正答率を上回っています。
 - ・ 「量と測定」「数量関係」については、県の正答率を上回っていますが、全国の正答率は若干下回っており、本校の課題になるところと言えます。

今後の取り組み

基本的な図形に関する事項や単位量当たりの大きさを求める除法の意味、基本的なグラフの読み取り方や割合など、すでに学んでいる事項の定着を図る活動に改めて取り組むことが必要です。朝学習や週末の家庭学習等を活用するとともに、授業の中でも振り返る場面を設定していきたいと考えています。

また、普段の授業から、数直線を思考のツールとして活用させ、正しい数量関係を意識させてから式で表す活動や、いくつかの情報を関連づけて考える活動に取り組む必要があります。そして、考えたことを、言葉や数、式、図などを用いてノートに記述して整理する活動や、整理した考えをもとに交流する場面を意図的に設定していきたいと考えています。意見を交流する活動を通して、筋道を立てて論理的に考えることや、自ら納得し他者に分かりやすく説明することで、学ぶことの楽しさを実感させていきたいと考えています。

数量関係を比較したり、グラフの表す意味を読み取ったりする際など、読み取ったことを吟味する習慣が定着するよう適宜機会を設けて指導することにも取り組んでいきます。

□ 理科

○ 理科については、全国及び県の正答率を上回る結果となっており、標準的な力が身に付いていると言えます。領域別では、

- ・ 「B区分 地球」「B区分 生命」とともに、全国及び県の正答率を上回り、着実に力が定着しています。
- ・ 「A区分 エネルギー」では、全国及び県の正答率とほぼ同じであり、標準的な力が身に付いています。
- ・ 「A区分 物質」については、全国及び県の正答率を下回っており、本校の課題になるところと言えます。

今後の取り組み

野外での観察において、本校児童は安全に留意して観察をする態度は定着していますが、動物を愛護する態度は実際の観察を通して育成されるものであることから、動画等の教材に頼るのではなく、実験を伴う活動を授業に取り入れることが必要です。

また、実験結果を分析して考察するところにも課題があると考えられることから、様々な実験結果を関連付けて考え、ノートに記述して整理する活動や、整理した考えをもとに意見を交流する場面を意図的に設定し指導することが必要です。

3 生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査から

○ 全国や県と比較し良好と思われる項目

・ 規範意識等

自分には、よいところがある、将来の夢や目標を持っている、先生はよいところを認めてくれている、学校のきまりを守っているなど、自己肯定感、規範意識の高い児童が多く、やる気をもって学校生活を送っています。また9割強の児童が教師に対して肯定的に捉えており、良好な人間関係を築くことができていると言えます。

・ 基本的な生活習慣・社会への関心等

昨年度に引き続き、生活習慣については改善の傾向が見られます。全校一丸となつての取り組みが実を結んできています。家族との関係、友達との関係も良好な児童が多く、安定した環境で生活できていることがうかがえます。また、地域行事に参加し、ニュース等に親しんでいる児童が多いことから、地域行事や社会への関心は高いと言えます。放課後等にインターネット、ゲーム等をしている児童は全国と比較して少なく、この点についても大幅な改善傾向が見られます。

・ 学習について

宿題等に真面目に取り組み、自分で計画を立てて取り組んでいる児童が多いです。学習に関する多くの項目で全国や県を上回っていることから、全ての学習に意欲的に取り組んでいることが推察されます。読書に親しんでいる児童も、全国や県を大きく上回っています。また、5年生までに受けた授業に対して肯定的な考えを持っている児童が多いことも、本校の特徴です。

● 全国や県と比較し課題と思われる項目

・ 家庭学習について

本校で推進している「机の前に座る時間」、学年×10分+10分、6年生の場合70分は、到達できている児童は半数程度です。また家庭学習で宿題をすることは、かなり意識できていますが、宿題が終わってしまうと自主学習に取り組む児童は少ないようです。昨年度と比較すると家庭学習に取り組む児童は増えてきていますが、中学校での学習に向けて、特に高学年では今後、自主学習の大切さや取り組み方について指導し、主体的に学習する楽しさを教えていく必要があります。

・ 社会に目を向けることについて

本校児童は、地域行事にも積極的に参加し、社会をよくするために何をすべきかよく考えています。またニュースにも親しんでいる様子が推察されます。しかし、ボランティア活動に参加した経験がある児童は3割強にとどまっています。子どもたちの意欲を社会につなげていけるように、ボランティア活動の意義について、教えていく必要があります。また、総合的な学習の時間等を活用しながら、ボランティア活動に参加する機会を提供したいと考えています。

・ 授業に関して

本校は、大規模校で学級数が多いことから、理科室の使用に制約があります。そのため、教室で観察や実験をすることも少なくありません。物理的な制約もあり難しいところですが、時間割を工夫したり、それぞれの学習に適した学習環境の整備を図ったりする必要があります。

また、実験結果のみを追求するのではなく、結果を予想し交流する活動や、結果の持つ意味について、子どもたちに考えさせ、高め合う場を取り入れる授業改善に一層努める必要があります。

ご家庭の皆様へ

本校の子どもたちは日々の学習に一生懸命、取り組んでいます。今回の調査結果からは、本校の子どもたちが充実した学校生活、家庭生活を送り、学習面、生活面ともに着実に成長していることが分かりました。教科に関する調査の結果も年々向上し、子どもたちの頑張りが分かります。また、質問紙調査からうかがえた自己肯定感の高さや何事にも前向きに取り組む姿勢は、普段の学校生活で見られる子どもたちの姿と重なります。これらは、ご家庭での教え、支えがあればこそのことです。

今回の質問紙調査にある「授業以外に普段(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」の問いにおいて、1時間以上と答えた児童の割合が、昨年度の調査結果よりもさらに多くなっていました。これも、ご家庭のご協力による成果だと思えます。

今年度、本校では、学力の向上のための学習指導の工夫、改善に取り組んでいます。学年に応じた基礎基本の定着に向け、教材・指導方法・評価の工夫、改善を行い、分かる授業を行うとともに、個に応じた指導、体験的学習や問題解決的学習を重視し、自ら学び自ら考える力が育つ指導に努めています。また、県の新規事業である「学びのサイクル改善事業 研究協力校」として、年間を通じた継続的な取り組みによる授業改善のサイクルを確立し、子どもたちの考える力や記述の力を高め、学力の向上と定着を図っています。さらに、これまで本校で力を入れてきた家庭学習の習慣化定着については、全県で今年度から取り組みが始まった「家庭学習連絡ファイル」を活用して継続、発展させて取り組んでいます。

今後も本校では、子どもたちに自主的に学習に取り組むことができるように働きかけていきますので、ご家庭におきましても家庭学習の習慣が定着できますよう、「家庭学習のてびき」を参考にいただき、学習環境を整えるなど、ご理解とご協力をお願いします。

子どもたちの成長を願い、今後とも、学校と家庭がともに手を携えて、より充実した教育活動を行っていきたく思います。よろしくお願ひいたします。